



中山間地域での暮らしの維持に関する調査研究報告 ～秋田県小坂町～

2022年4月22日

(株)日本総合研究所 創発戦略センター
齊木 大



(資料) 小坂町HPより

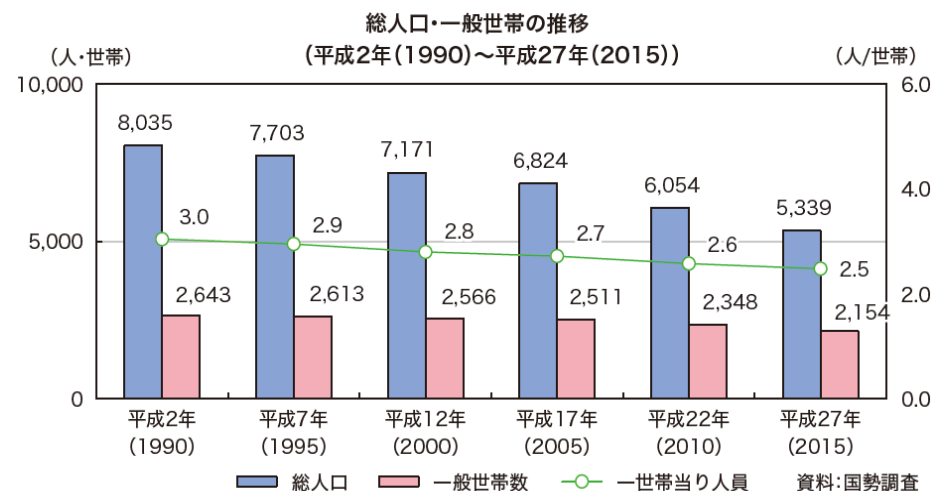
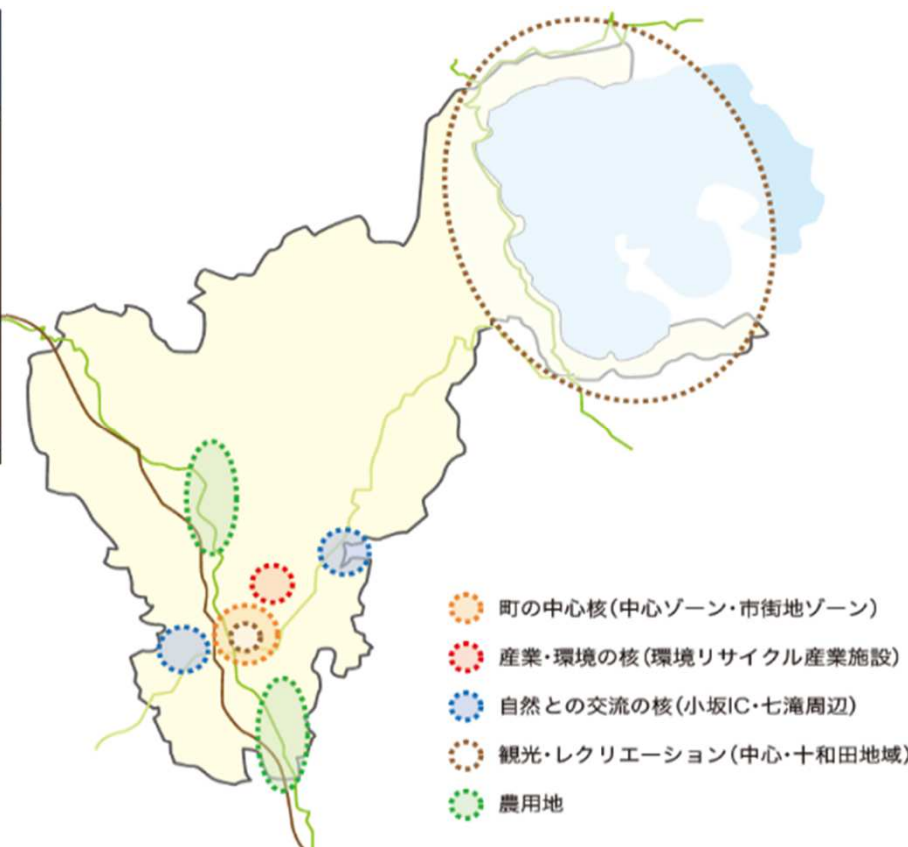
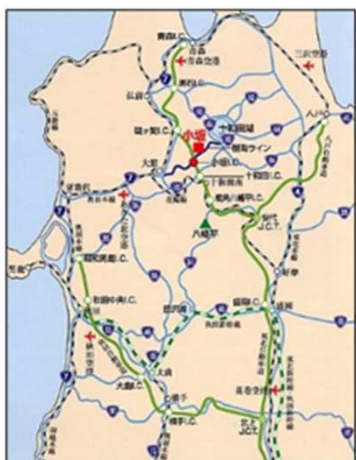
新型コロナウイルスへの対応など、業務多忙にも関わらず、私どものインタビュー調査を快くお受けいただきました。

丸2日間にわたり、行政の複数部署、社会福祉協議会や介護事業者、民生委員や自治会役員の方など、町内のさまざまな方とのインタビューを調整してくださったことに、心から感謝申し上げます。

本日発表する調査結果報告に含まれる誤りはすべて発表者の責によるものです。

小坂町の概要

- 秋田県北東端に位置し、青森県・十和田湖と接する。人口4,640人（2022年3月）、高齢化率は41.8%（2015年）。人口の2/3が町の中心部に居住している。
- 小坂鉱山とその周辺産業で発展し、多くの労働者が全国から集積したが、1990年閉山に伴い人口減少が進む。現在、第三次産業従事者が半数超。



〈沿革〉

1885年
1909年
1955年
1990年
1994年
2009年

小坂鉱山の操業開始
小坂鉄道の旅客営業開始
新町制施行
小坂鉱山閉山
小坂鉄道の旅客営業廃止
小坂線全線廃止

(出典) 第6次小坂町総合計画より抜粋

1. 実施時期

2021年11月24～25日

2. 場所と方法

小坂町役場、 対面インタビュー（1名あたり30～45分程度）

※下記項目を提示しつつ自由にお話を伺う半構造化インタビュー形式とした

3. 対象

小坂町（行政）	3名	（高齢福祉、総務、教育委員会）
社会福祉協議会	4名	（介護事業担当、地域福祉担当）
自治会、民生委員	2名	

4. インタビュー項目

- ・ 小坂町の暮らしで良いと感じている点
- ・ 小坂町での今後10年程度の暮らしを見据えたときに感じる不安、課題
- ・ ふだんの暮らしの実態と課題（生活、移動・交通、医療・福祉、教育文化など）

地域での生活を支えるサービスの持続性を考える視点

コスト合理性

- ✓ サービス提供にかかる採算が取れるか？
- ✓ この先も採算が維持できるか？

最小サービス提供単位

- ✓ サービス需要が最小単位を下回らないか？
- ✓ および、最小単位を提供する体制を維持できるか？

アクセシビリティ

- ✓ 住民がアクセスできるか？
- ✓ アクセスすることに心理的な障壁がないか？

買い物

- 日常的な買い物は町の中心部のスーパーで、まとまった買い物は郊外（隣接市）の大規模スーパーで行っている
- 行政や金融機能と合わせて町の中心部に買い回りでできる機能の配置が望まれる

医療

- 町内に大規模病院がないため、高齢者も含めて隣接市に通院。日常的な診察と在宅医療・介護者のサポートを診療所が実施
- 広域で医療機関のサービス提供体制の維持できるような資源配置が望まれる

生活サービス

- 高齢の住民感覚では、ゴミ出しと除雪が一番の課題。自治会によっては地域の高齢者のゴミ出しや掃除を助ける活動を実施
- 自治会内で生活周りを助け合い、サポートする体制を維持することが望まれる

■ おわりに ～地域への帰属意識をとらえることの大切さ

小坂鉦山があった時代の名残りとして、自治会単位の帰属意識が強く、お祭り、ゴミ出しや除雪の手伝い、会館の共同管理などを地域でやる意識が残っている
ただし、一部自治会をのぞき、鉦山時代を知っている世代（70歳代以上）に限られる

病院やまとまった買い物などは、既に多くの住民が隣接市まで通っており広域化可能だが、

むしろ地域への帰属意識が、世代によって途切れていることのリスクが大きい

**住民の普段の移動（町の中心部への移動＋隣接市への広域移動）を支える
機能を持つとともに、それだけでなく、
小地域でこれを支える、互助に参加していると実感しやすい
そういった住民参画型のモビリティを期待したい**